

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム はごろも【ユニットⅠ】

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500553		
法人名	社会福祉法人衣川会		
事業所名	グループホーム はごろも【ユニットⅠ】		
所在地	〒029-4471 岩手県奥州市衣川古戸45番地		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の気持ちや思いを大切にしながら、普段からコミュニケーションをたくさんとれる雰囲気作りを行っている。認知症状により不穏状態の時も、その方の思いや行動の裏側を理解し、理念にもある『寄り添うケア』を大切にしながら関わりを持つように心がけている。
衣川診療所と隣接しており定期通院や体調不良の際には通院しやすい状況で、職員に医療職はいないものの健康管理はできている状況である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然環境に恵まれた旧衣川村の中心地区にある2ユニットの平屋のグループホームである。広い敷地内には法人が経営する2つの特別養護老人ホーム(ミニ含む)がある。また、法人本部からは、協力医療機関の国保衣川診療所(歯科含み)にエレベーターで繋がりが、体調不良時や定期受診の安心感と利便性が高い。地域の中心地域にあり、周辺には、こども園、小中学校、地区センター、商店や食堂が点在しており、コロナ禍以前は、ハロウィンや運動会、文化祭の見学等各種行事での交流が定着していた。また、中止が続いていた「奥州ころもがわ夏祭り」では、神社を出発しメイン会場に向かう途中に騎馬行列が法人敷地に立寄り、利用者も外に出て祭りの雰囲気を楽しむことが出来た。今後、コロナ鎮静後の事業再開が大いに期待できる。開設当時から事業所理念「ありのままのあなたに寄り添います」を柱に、利用者への日々の支援と災害対策等でのチーム力向上が期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム はごろも【ユニット I】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に付くところに掲示し、常に意識付けを行っている。 年度末に振り返る機会を設けている。	ユニット I 開設当初の職員が考案した「ありのままのあなたに寄り添います」とする理念を継続して掲げている。両ユニットとも、理念を額縁に入れ、職員や利用者の目につきやすい壁に掲示している。平成24年から2ユニットとなり、職員の異動や入替りも多く、自己評価でも理念の再認識化の意見が散見されている。	全ての職員が、事業所運営の基本である理念を自らのものとして、まず具体的に理解するとの手順を踏んだ上で、期待される水準の介護を利用者に提供し、同時にそれぞれの利用者の介護計画に具体的に反映されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染拡大により交流は少ない。コロナ禍以前は児童クラブやボランティアとの交流は行っていた。	コロナ禍以前にあったこども園や児童クラブとの交流、歌や踊りのボランティアの来訪等は途切れているものの、近隣住民や地域の産直から季節の野菜が食材として今日でも提供されている。事業所は旧衣川村の中心地区に位置し、幼児施設や学校、地区センターや商店が近隣にあり、これまでの交流実績からも、コロナ禍鎮静後の再開は十分に可能な環境下にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域包括支援センターからイベントへの参加を依頼されたこともあったが、コロナ以降は出向く機会もなくなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は地域の住民代表などの他、入居者の方にもなっている。委員の方からは様々な意見やアドバイスをいただいているが、最近は新型コロナ感染拡大防止のために中止することが多い。	感染者数の多い時期には、止むを得ず中止することもあったが、入居者の活動場面の写真を多数添えながら、利用者や活動の報告を行い、意見交換も活発に行われている。管理者は、委員の拡充、中止時の対応、交替での職員参加を思案中である。	運営推進会議を利用した事業所力向上のため、委員の拡充や会議中止時の工夫、職員参加等の取り組みを強化されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成メンバーとして行政職員に参加していただいている。定期的な意見交換等は行うことができている。また奥州市衣川総合支所が同一エリアにあり、必要に応じて連携を図っている。	合併前の旧衣川村の当時から、行政と法人とは、介護や福祉、防災部門で特に連携が図られてきている。更に総合支所の新築移転により、法人本部から診療所経由の連絡路を通して行政手続きや相談に総合支所に出向くことが出来るようになってきている。総合支所の市民福祉グループリーダーが委員として運営推進会議に出席しており、照会や疑義等についても、総合支所担当部署でその都度対応し、必要に応じ本庁に繋いでいただいている。昨年度は介護相談員2名の来所相談もあった。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はごろも【ユニット I】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体として身体拘束廃止委員会を組織し、グループホームからも委員として参加し定期的に検討を行っている。また研修会を実施している。玄関の施錠に関しては、防犯のため夕方5時から翌朝6時まで施錠している。	法人全体の会議のほかに、事業所独自で身体拘束防止と事故対応の検討会議を定期的開催している。法人全職員対象の年間研修計画の中にも、全体研修と事業所研修が組み込まれている。夜間等のセンサー利用者はいないが、利用者3名が上掛け布団に鈴をつけている。スピーチロックについては、気づいた都度職員間で注意喚起できる関係強化が必要と、管理者は認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は法人全体で学習会を開催する予定。またスタッフ会議で声掛けや対応の見直しを行い、虐待につながらないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用している利用者があり、大体の内容については各職員が把握できているが、権利擁護に関して学ぶ機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際などは重要事項説明書を用いて説明を行い、不明点については詳しく説明するなどの対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書で事業所や外部機関も含めた相談の窓口を説明している。また入居者やご家族からは都度要望や意見等を話していただけるような関係性や雰囲気づくりに努めている。	来所時や電話等で、その都度家族からの要望等は確認するようにしている。利用者の日常生活への要望や面会希望等が殆どで、事業所運営に関する意見はない。ただ、運営推進会議委員の利用者からは、「優しい言葉使いや接遇」についての意見が出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議で意見等を吸い上げ検討し、反映する機会を設けている。	毎月1回は職員会議を開催し、日常的に各ユニットのリーダーが中心となり、職員からの意見や提案、要望等をとりまとめている。今年度からは、積極的な意見交換や改善提案等がなされるよう、管理者も会議に出席している。	管理者、介護支援専門員、ユニットリーダー等が中心となり、理念に基づいた利用者支援のための実践力向上と職員間の「報告、連絡、相談」の円滑化の取り組みと工夫を期待する。

事業所名 : グループホーム はごろも【ユニットⅠ】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し実施している。勤務表作成においては個々の家庭状況を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画に基づき全体での研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がいわて地域密着型サービス協会理事となっている。相互訪問する機会はないが、奥州北上ブロックでは年度後半にzoomでの会議を開催する予定。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人とも会って情報の収集を行い、事前にケース状況を把握している。入居後もこまめな観察やかかわりの時間を多くもち、新しい生活環境に慣れていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定の連絡、その後の連絡、契約時に困っていること、今後の不安などお聞きするなど関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時の本人の状況をお聞きし、必要であろうサービスを助言することもある。また、入居決定時の状況確認の際にどのような関わりが必要か確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるところは職員や他利用者と一緒に行っている。年々できることは少なくなっているが、プランターの植物の世話や漬物の作り方を職員が教わる場面もある。		

事業所名 : グループホーム はごろも【ユニット I】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報誌を月1度発行し生活の状況をお伝えしている。コロナ禍で面会や外部通院のために家族が来る機会は減少しているが、物品の補充依頼の電話をする際などに情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの地域へ出かけることもなくなってきている。衣川地域の理髪店に来てもらっていたが、現在は体調の関係で訪問しなくなった。遠方の家族とはオンライン面会や電話を活用し導入して関係が途切れないようにしている。	コロナ禍による面会制限や行事等の中止等で、近親者とも疎遠になり、盆正月の帰宅や墓参りも思うように出来ない状況下にあるが、受診同行や日用品、小口現金を持参される家族との面会機会は保たれている。地域内唯一の医療機関である衣川診療所受診の際に、待合室で知り合いの方と久しぶりに会える事もある。最近、隔月で定期的に来所される理容師さんが馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間には一緒に過ごすように声掛けを行い、コミュニケーションや話題を提供し交流を図るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係機関、ご家族からの問い合わせがあれば相談対応に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションにおいて希望や意向を聞き出す関わりの実践に努めている。また、定期会議において検討する機会を設けている。意思表示が乏しい方には選択肢をいくつか提供したり家族から情報収集したりしている。	簡単なやりとりで意思表示出来る利用者も含め、両ユニットとも、どの利用者もコミュニケーションは可能である。入居時に把握した利用者の思いや暮らし方の希望に加え、日々の支援を通じて新たに確認した内容の活用と共有化が課題となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集や入居後においても本人や家族、担当ケアマネジャー等から情報の把握に努めている。		

事業所名 : グループホーム はごろも【ユニットⅠ】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを観察し把握に努めている。また業務日誌やケース記録において情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時にはサービス担当者会議を開催し意見を反映するよう努めている。また定期的な評価や定期会議において検討している。	入居時、ご家族から記載していただいた「暮らしの情報シート」とアセスメント表とも活用しながら、介護計画を作成している。介護計画の見直しは、6か月毎としている。毎月の職員会議の後半には、利用者全員の簡単な評価も行っている。利用者毎の居室担当者が中心となり、モニタリングを実施しているが、介護計画の見直しに当たっての効果的な作業プロセスや職員会議での活発な意見交換が課題となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録等に精神状態や食事や排せつの状況を記録しており、それらを活用しながら情報共有を図っている。また定期会議において検討する機会を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況、ニーズ等に対して対応できるかどうかを明確にした上で相談し、現在のグループホームでできる範囲での支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は書道の講師として地域の方に来ていただいていたが高齢となったため辞退されている。その後は慰問のボランティア団体以外に地域資源の把握が不十分なところもあり、活用までは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医への対応を取っている。衣川診療所受診の際は職員が付き添い対応しているが、それ以外の受診の際は、医師に文書で情報提供しご家族に対応していただいている。	入居を契機に衣川地域外からの入居者は、かかりつけ医を衣川診療所に希望して変更している。精神科や診療内科、眼科等の専門医受診時は、家族が対応している。体調不良や問題行動等には、「情報提供シート」を準備し、受診時の一助としている。受診後の服薬変更等は、申し送りや連絡ノートで周知を図っている。	

事業所名 : グループホーム はごろも【ユニットⅠ】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時や急変時などは併設している特別養護老人ホーム看護師と連携を図り対応している。また、必要に応じて協力医療機関との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には医療機関へ入居中の状況を情報提供している。入院中は家族や医療関係者と情報の共有を図り、退院時には医師等から生活の留意点などの情報収集を行い、スムーズな支援につながるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、契約書や重要事項説明書等を用いて利用対象者と契約終了の説明をさせていただいている。重度化時には、現時点での状況の説明を行い、次の生活を考えていただく対応をとりながら他サービス機関への相談援助を行っている。看取りは現在行っていない。	近隣に、訪問系の医療資源が乏しく、敷地内に系列の特別養護老人ホーム50床とミニ特養29床があり、身体状態が低下し入浴介助が難しくなった時点で、施設入居の手続きを含めた次の段階の相談を行っている。これまで看取りの実績はなく、当面、現下の対応を継続する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを目のつく場所に置き対応している。併設している特養看護師の指示や協力医療機関の指示により対応している。定期的な訓練は十分とは言えず実践力には不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で年2回の防災訓練を実施している。法人として地域防災協力隊を組織しているが、新型コロナの影響でここ数年は訓練参加は見送っている。	春は、消防署立合いの下で法人本部と合同で夜間想定訓練を実施したところ「職員同士の声かけを活発に」との講評があった。10月には、事業所毎の訓練を予定している。ハザードマップ上の地区指定は無く、防災は火災対策に重点をおき、万が一の場合でも敷地内の他の2施設を利用することが出来る強みを持つ。地域防災協力隊員には、運営推進会議委員の近隣住民も含まれ、駆け付け協力の強い味方となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で一人ひとりの性格や心身・認知症の状態等の把握に努め、個々に合った対応を模索し、職員同士で情報交換しながらケアにあたっている。	管理者を除き、両ユニットとも女性職員だけの体制であるが、異性介助拒否は無い。排泄や入浴、更衣等デリケートな介助時には、声がけや羞恥心に配慮した対応を心がけている。来年2月には、「プライバシー保護」の全体研修が予定されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で選択できるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定に入居者の希望を取り入れるように努めているが、個々のペースに合わせる事がなかなか難しく集団での支援になっていることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪などの声掛けや支援を行っている。着替えの衣類を一緒に選ぶなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主なメニューは本体施設の厨房で調理しているが、みそ汁等の具材を切ったり後片付けなどは行っていただいている。またおやつ作り等で調理をする機会を持っている。	ご飯とみそ汁は、3食とも職員が夫々のユニットで作れ、毎月手作りおやつの日を設定している。他、夏祭りでのスイカ割りや焼きそば、敬老会での寿司の提供等定期的に行事食も提供している。希望によりラーメンの出前をとったり、春にはワラビの穂先取り、夏のシソの葉取り後のジュースの加工、手作りまんじゅうの丸め等はお手の物の利用者も多く、作業を楽しんで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立て、一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供している。一日の食事や水分の摂取量は都度チェックしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はごろも【ユニット I】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けを行い、入居者の状態に合わせた対応を行っている。必要時には歯科通院も行っている。今春には歯科衛生士が訪問してくれることもあった。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しながら適宜トイレの声掛けや誘導を行っている。一人ひとりに合わせた支援を心がけている。	なるべく失敗を少なくし、トイレでの排泄ができる支援を心がけている。ユニット毎に排泄チェック表が準備され、昼夜ともオムツを使用している利用者は両ユニットとも無く、それぞれの利用者に合わせた下着や排泄補助用品を使用している。入居後の支援により、夜間のポータブルトイレ使用が改善された利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確保しながら、毎日の日課として体操やレクリエーションを行い、それらを通じて自力排泄を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では2日おきの入浴となっている。個々の要望に沿った支援は行うことができていないが、拒否がある際などは無理強いないなどの対応は行っている。また必要に応じて清拭等を行っている。	週に2、3回の入浴は、午後の昼寝後にマンツーマンで行われ、最近では嫌がる様子も少ない。湯船に入り気分が良くなると歌を唄いだしたり、世間話をしたりとリラックスできる機会となっている。柚子湯等の季節感を醸し出す工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動機会を設け、夜間にゆっくりと休んでいただけるように支援している。また寝不足や疲れがみられる際には日中も休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容はファイルに整理し、いつでも確認できるようにしている。処方内容に変更があった際は日誌等に記録し情報共有に努めている。また内服時は確実な服薬(飲み込み)まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや「できる力」に応じて洗濯物干しやたみ方、掃除等の家事を分担し、行っている。レクリエーション等では笑ったりストレス発散などにつながる機会作りに努めている。		

事業所名 : グループホーム はごろも【ユニット I】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞きながら、天気の良い日には外での日向ぼっこや散歩などを行っている。以前は馴染みの美容院へ出かける方もいたが、新型コロナ流行以降は外出の機会は少なくなっている。	両ユニットのホールからは、南側に広いウッドデッキがあるものの、それ以上に、法人の敷地は日当たりが良く広大で、交通事故の心配もない。敷地内にミニ菜園もあり、日常的に散歩や外気浴に利用されている。また外出と併せ椅子を持ち出しお茶会をすることもある。春の花見や秋の紅葉、冬の白鳥等ドライブに近隣の風光明媚な場所に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお預かりしている小口現金のほか、事務所の金庫で個人の財布でお金をお預かりしている方もいる。必要時には使用できるようにしているが、使用する機会が少ないのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族へ電話の取次ぎをするなどしている。また贈り物や手紙が届いた際には電話をかけ、お相手との交流が図れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や冷暖房で快適な室温に保つことなどで安心・安定して過ごしていただけるように努めている。またウッドデッキで野菜を育てたり、季節ごとの装飾も行っている。 なお、感染症対策として定期的な換気や消毒液による拭き掃除を継続している。	両ユニットとも、ホールの天井は高く梁がたくさん生まれ、農村部の旧家の天井が想起される。採光も良好で、冬期には床暖房が入れられる。両ユニットのホールの南側に広いウッドデッキがあり、自由に出入り出来、森林浴が楽しめる。掲示物は最小限に抑えられスッキリとした印象で、掲示板にはススキや書道の作品、玄関にはリンドウの花が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	団らん場所から少し離れた所にソファーやベンチ・小上がりがあり、少人数で思い思いに過ごせるような環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては馴染みの物を持参していただいているように依頼している。また使い慣れた物も認知症の進行により使用が困難となってきた際は、本人やご家族に相談しながら居室づくりをするように努めている。	入居時の馴染みの品持参は、重要事項説明書にも記載され、利用者への配慮が伺える。各居室入口表札には利用者の写真が飾られ、上部には木製庇がある。自宅で使っていた椅子とテーブルを持ち込んだり、最近はお孫さんの結婚式の写真を壁に貼った利用者もあるとのことである。両ユニットで、ラジオを2名、テレビを3名が持参している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はごろも【ユニットⅠ】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等には迷いなく行動できるように表示を行っている。		